

令和 7 年度第 2 回まちづくりん部会の協議報告について

1 実施日

令和 8 年 1 月 2 0 日 (火)

2 令和 7 年度のまちづくりコーディネーターの活動状況について

(1) 活動報告 (※ 2 月 3 日時点)

ア 令和 7 年度実績 1 6 件 ※令和 6 年度実績 1 6 件

関係先	内容	人数	自主活動
自治会	①6/24刈谷市自治連合会勉強会【新規】 地域ヒアリングの結果等（小山自治会恩田 4 組、東刈谷自治会、築地自治会の取組事例）の共有	3	
	②8/5自治連合会・公民館連絡協議会合同研修会【新規】 「アジア・アジアパラ競技大会における地域の関わり方」をテーマとしたグループワークのテーブルファシリテーション	6	
	③8/11中高生のためのボランティア入門講座【新規】 学生が刈谷のまちづくりに参画するための一助となるよう、夏休み中の中高生を対象に講座を開催した。	6	○
	④9/27新体制への移行に関するフォローアップ（築地）【新規】 新体制の実情を確認する「振り返り会」を実施	2	
大学	⑤11/22地域連携フォーラム2025（愛知教育大学）【新規】 座談会でのテーブルファシリテーション	6	
市	⑥8/4「共存・協働のまちづくり講座」（市民協働課）【定例】 グループワークに市民役として参加	6	
	⑦11/15ファンドレポートの作成（市民協働課）【定例】 取材先：赤十字ハートフェスティバルⅢ ～たいせつな未来のために～	2	
	⑧11/22ファンドレポートの作成（市民協働課）【定例】 取材先：子ども食堂にお祭りを届けよう	1	
	⑨1/24かりや夢ファンド補助金公開審査会でのまちコくらぶmini（市民協働課）【定例】 審議時間にて申請団体及び来場者と交流	4	○
	⑩2/3「協働のまつり場」（市民協働課）【定例】 健康推進課所管の「がん検診」をテーマに、がん検診の対象者に受診を促す効果的な方法について、関係団体・関係各課等と意見交換をした。	2	
その他団体	⑪4/27 実行委員会のファシリテーション（ワールド・スマイル・ガーデンーツ木）【定例】	2	

	⑫8/23 一里山福祉委員会座談会のファシリテーション（刈谷市社会福祉協議会）【新規】	2	
	⑬10/4桜区福祉協議会座談会のファシリテーション（刈谷市社会福祉協議会）【新規】	2	
	⑭11/10東刈谷福祉委員会座談会のファシリテーション（刈谷市社会福祉協議会）【新規】	2	
	⑮12/7「わがまちのつむぎ場」出展【定例】 （刈谷市民ボランティア活動センター） 参加団体同士の交流	4	○
	⑯1/18東境福祉委員会座談会のファシリテーション（刈谷市社会福祉協議会）【新規】	2	
合計		5 2	3

イ 令和7年度予定 2件

関係先	内容	人数	自主活動
自治会	①3/7チャレンジフェスタやってみりん【新規】 刈谷西部自治会主催イベントの企画・運営に中学生とまちコくらぶが協力	未定	○
市	②3/15ファンドレポートの作成（市民協働課）【定例】 取材先：俳優松原実智子さんの朗読を聞く会 VOL.2	2	
合計			1

ウ 成果と課題

今年度は新規の派遣依頼が多く、大学や社会福祉協議会等、新たな関係先にまちコの存在と活用意義を知っていただける機会となった。また、昨年度に引き続き「まちコくらぶ」での自主活動が活発であった。

今後も「築地自治会の体制見直し検討支援」のような地域活動への伴走支援について、地域との連携を図り進めていく必要がある。

(2) まちコ交流会

ア 第1回

日 時：令和7年5月24日（土）13：30～17：00

場 所：刈谷市民ボランティア活動センター

参加者：まちコ11人、元まちコ・つなぎの学び舎修了生5人、
一般6人（市民活動団体、学生ほか）、世話人2人、
市まちづくり推進課1人 計25人

内 容：第1部 まちとまちコの交流

第2部 みんなで住みたいまちを話し合う

イ 第2回

日 時：令和7年12月14日（日）13：30～16：30

場 所：刈谷市民ボランティア活動センター

参加者：まちコ10人、一般7人（自治会長、つなぎの学び舎受講生他）、

元まちコ2人、世話人1人 計20人

内 容：第1部 まちとまちコの活動報告

第2部 ワークショップ「私が住みたいまち」を考える

(3) つなぎの学び舎

ア まちづくりコーディネーター養成講座

つなぎの学び舎の最終回を2月7日(土)に開催し、「わたし発のまちづくりを提案しよう」をテーマに、宿題で作成した企画書を1人ずつ発表し、受講生同士でコメントを交換し合った。受講生17人が修了した。

新たにまちづくりコーディネーターに10人が登録し、まちづくり活動のサポートを担う人材が増えた。

イ まちづくりステップアップ講座

既に「まちづくり活動をしている人(まちコ含む)」が実践に役立つ力を高めるための講座。今年度は6月、2月の全2回開催した。延べ参加者数は21人。次年度は、5回程度開講予定。

ウ 成果と課題

まちづくりコーディネーター養成講座は、小学生や大学生など受講者層の広がりが伺え、まちづくりを担う若い人材の発掘のきっかけとなった。また、第1回まちコ交流会をきっかけとした受講や、過去の修了者からの紹介による受講も多く、これまでの取組みが少しずつ実を結んできていると言える。

まちづくりステップアップ講座は、まちコ登録者の参加は多く、満足度も高いため、リカレントとしての役割は果たしていると考えている。その上で、登録者以外のまちづくり活動をしている人にもより受講してもらえよう、さらなる広報や受講意欲を高めるようなカリキュラムを検討する。

共存・協働による地域活動の活性化に向けた検討

資料 1 - 2

【部会の協議方針】

- ・地域活動の活性化に向け、共存・協働により各自治会等で取り組まれるとよいことについて検討する
- ・課題が具体的になっている地域をモデルに取組を考える

1) まちづくりコーディネーターによる伴走支援の実施

令和 6 年度：打合せ 7 回、築地自治会定例会への派遣 5 回（7 月 31 日～3 月 8 日）

令和 7 年度：フォローアップ 1 回（9 月 27 日）

2) 担当まちコ：桑畑、川本、鈴木（3 名）

3) 取組みの詳細：以下、テーマ 5 の通り。

※マーカー部分は、「共存・協働により取り組まれるとよいこと」の好事例や種となりうる事柄である。

テーマ

5

自治会活動業務を分担し、各々が主体的に関われる体制に

自治会活動では、一部の役員に負担が集中するという問題が生じがちです。「自治会行事が同じ内容になってしまう」「企画に知恵を借りたい」という相談が、築地自治会長さんから市民協働課に寄せられたのを機に、そのお悩みを整理していくと、「自治会長の業務が多すぎる」「自治会長の負担が大きすぎると、後継者探しも難しくなる」といった状況が見えてきました。そこで、「現在自治会長が担っている業務を整理し、役割分担を見直して、皆で協力して活動できる体制にすること」を目指した取組みを行うこととしました。

市民協働課では、地域でこの問題を検討・改善するサポートとして、まちづくりコーディネーター（以下、まちコ）を 5 回派遣。まちコは、毎月の定例会におじゃまする形で、「自治会運営のありたい形」を役員皆で考え、役員内で業務を分担する体制づくりに向けて協力しました。令和 7 年度より新体制（部長制）で動き出した結果、各部長を中心に少しずつ主体的な運営が可能となり、活発な議論や行事内容の改善・工夫、また負担の平準化につながりました。

築地地区
基本情報

2,834 世帯（R7.4.1 時点）
内、自治会加入世帯 1,931 世帯
（全 13 組）

なじみやすい地域のタイプ[°]（状況）

- ・業務分担を見直したいと考えている
- ・人材育成に力を入れたいと考えている
- ・行事がマンネリ化している



ポイント 1

外部応援者を受け入れられやすい状況をつくる

令和 6 年 7 月に、築地自治会長さんから市民協働課が相談を受けると、築地自治会を応援してくれるまちコを募り、築地自治会長・まちコ・市民協働課の三者でお悩みを整理することからスタートしました。すると、当初の相談テーマであった「自治会行事が同じ内容になってしまう」という主要因は、就任 3 年目となる自治会長に企画・調整・細かな事務作業までほぼ全ての業務が集中して、企画等に手が回らないことにあるという構造が見えてきます。そこで、この現状を役員さんに共有し、本来どんな形がよいのか自分ごとで考えてもらい、それを形にすることを目指そう、ということになりました。第 1 回目の訪問は 12 月、以降毎月定例会を訪問して体制を検討し、新年度は新たな体制で始動、とサポートの方針は決まりました。

問題は、役員の方々が、まちコのような外部の応援者を受け入れ、変えていこうという気持ちになってくれるだろうかという点でした。そんな折、次年度から役員が担ってきた市民だよりの配送がなくなる制度変更がありました。

ならば、「次年度から役員の業務量が減る状況がある、他方で業務を抱えている人もいる。これを機に、自治会業務の見直しをしてみよう」という話し合いなら、自分ごととして話し合えそうだ。そこに「まちコが相談に乗ってくれるよ」というスタンスがよいのではと三者で考えが一致。会長さんが業務を様々兼務している状況を資料でも示し、「全部やってしまっていたけれど、皆で分担する形になるとうれしい」と、率直に気持ちを分かち合うことも重視することにしました。

ポイント 2 / 発言が出てくると、ネガティブな意見は少ない

定例会でまちコが関わる部分の話し合いは、30分～1時間程度。派遣当初の定例会では、役員の発言は少なくはないものの、自治会長からは「指示」、「役員」からは伺いが多い様子が見受けられ、「こんな風にしたい」という意見はあまり出てきませんでした。そこで、日頃自治会活動・業務について感じていることをざつぱらんに話してもらうよう促すと、以下のような想いを持った発言が出てきて、ネガティブな意見は少ない状況が生まれます。

- ・自治会活動が住民に浸透していないため、回覧以外にもPR活動をもっと増やすとよい。
- ・自治会長、組長、班長になりたくない人が多いのは、イベントが多すぎるから。見直しが必要ではないか。
- ・文化祭、敬老会など同じようなイベントをやっており、合体できるのではないか。合体すると数も減るのではないか。
- ・皆で意見を言い、皆で考えよう。

元々、「自治会長さんがやり過ぎている・頼りすぎている」と役員さんが感じていた様子もうかがえました。また、他自治会の事例を知ることで新しい視点も見えるのではないかと、他地域で自治会長を務めるまちコにも協力してもらい、「私の自治会では、イベントを行う時は担当役員が中心となって進めていく。自治会長は全体の進捗を確認したり、相談にのる役割が中心だよ」といった紹介も行いました。

自治会長の想い、役員の想い、そして他自治会の取組み例を参考に、表のようなステップで体制の見直し検討が進んでいきました。

■ 検討・改善の大まかな流れ

時期	主な内容	左記のための準備
派遣初回までの打合せ		築地自治会と他自治会の組織体制比較 定例会での問題提起の仕方の検討
12月、1月	自治会活動の業務の現状、問題意識の共有	<各定例会に向けた準備> 新体制に向けた統廃合案作成 新体制における各部門の担当者案作成
2月	体制の見直し (部門の統廃合、各役員の担当部門決め)	
3月	各部門の活動内容の明確化 班長・各種団体の協力範囲・巻き込み方検討	
4月	上記を反映した新体制でスタート	
9月	新体制の実情を確認する振り返り	



ポイント 3 / 活動体制の見直し ～部長制へ移行～

「継続すること・変えること・やめること」の切り口で前年度の活動体制を見直し、新体制を構築しました。活動の実績をふまえ、業務の平準化を意識して部門や委員を統廃合した結果、防災部などが新設されました。見直した体制には、担当者名も載せることで、各担当者が自分ごととして認識・行動できるようにしました。

【令和 6 年度】

【令和 7 年度】

部門		部門	主な役割
防犯部	統合 ※交通安全部を吸収	防犯部	防犯パトロール、交通立ち番、ゼロの日
交通安全部			
児童福祉部	統合	福祉部	敬老会の企画・運営 一味会（いきいきクラブ）や民生委員・ 児童委員等との連携
成人福祉部			
少年部			
体育部	継続	体育部	運動会の企画・運営
文化部	継続 ※文化祭は中止（敬老会と重複）	文化部	夏祭り（盆踊り大会）の企画・運営
広報部	名称変更	情報宣伝部	自治会活動の PR
－	新設	防災部	防災訓練等の自主防災会活動

※築地自治会では、組長が部長・副部長として公民館行事（敬老会・運動会・夏祭り）の運営に携わっている。

これにより、新年度は、各部長を筆頭に部門単位で活動する体制がスタートしました。部長制の導入によって、各行事開催に向けた会議体も複数でき、メンバーが主体的に運営に関わるようになりました。

9月に新年度の変化を中間的に振り返ったところ、上記以外にも各部門で、こんな変化が生まれてきました。

■ 部長制に移行したことによる変化

部門	生じた変化
文化部	【夏祭り】役員が主体的に運営に関わり、地区のことがよく理解できるようになった。
福祉部	【敬老会】運営方法の改善、工夫に取り組めた（弁当配布や受付対応等）。
体育部	【運動会】競技の進め方について議論の時間を設けられた。 班長や協力員と早期から打合せができ、皆でつくる意識が醸成された。 協議の場と承認の場を分けたことで会議回数が多くなったため、整理する必要あり。
防災部（新設）	【防災訓練】従来の固定化された内容から脱却し、意見をまとめて方向性を決められるようになった。役割を割り振った分、役員の集まる回数は増えたが、自治会長ら4役の負担は平準化された。
情報宣伝部（名称変更）	【広報誌「ネットニュース」の制作・発行】 ・回覧にかかる時間を考慮し行事のアナウンスのタイミングを検討した。 ・カラー印刷の写真が目にとり紙面となり好評を得た。

ポイント 4 役員の組織への関わり方・意識の変化

9月の振り返りでは、各部門での変化・成果と共に、自治会運営全体に関わる課題についての発言も出てきました。例えば、役員の業務にパソコンスキルが求められる状況や、今年の部ごとの活動や反省点を記録し、来年以降に引き継げるよう「（誰もが役員になれるように）パソコンに詳しい人とペアを組む」、「データをクラウドで管理する」、「地域の若者に有償依頼」、「デジタル部の新設」等の提案が出され、前向きな意見交換が行われました。

また、自治会長の意識も変化し、振り返り会では、このようなコメントが語られました。「元々、皆さんは力を持っておられます。今回部長制に切り替えたことで、その力を出してもらうことができました。私自身、これまでそのような関わり方ができておらず、『自分がやらなければならない』という思い込みのもとで動いていました。これまでの自治会長も同様で、その結果、活動が個人に依存する形となり、物事がなかなか前に進まない状況が続いていました。

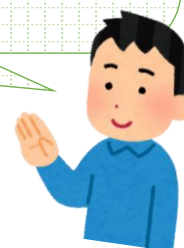
今回班長さんを加えて、地域のことを一緒に考えるようになってから、ものすごく進展しました。協力の形がどんどん増えてきていると実感しています。」自治会長が役員のを信じて各行事を任せられたことも、彼らの意欲や責任感を引き出すきっかけになったことでしょう。

イベント運営の改善ができた

敬老会に文化展を組み合わせて無事に開催できました。部長と常に相談しながら進めた結果、運営方法の具体的な改善点として、「①暑い時期のため弁当を饅頭に変える」、「②女性の会の負担を減らす」、「③受付と記念品配布を一体化し、チェック表を用いる」ことで来場者対応の間違いがなくなりました。当日来られなかった人にも役員の協力のおかげで、記念品を届けることができました。

昨年のことは全く知らない中で関わりましたが、分からないことは部長が自治会長に確認して自分たちに展開してくれたためやりやすかったです。意思決定も部に移譲され、自立的な運営が実現したこともあり、来年以降は部単位で継続的にうまく運営ができそうです。

福祉部副部長



部会での意見【テーマ5】

- ・地域の現場では、他の地域に関する情報があまり知られていない状況がある。まちコが、他地域のやり方等の参考になる情報を提供したり、自治会運営に関わる資料を一緒に読んでくれたり、といった、出しゃばらずに困ったら助け船を出してくれるスタンスで関わるとよい。
- ・さらに、各地域で関わった経験をまちコ同士が共有して対応できれば、よりよい形で関わりやすくなる。
- ・住民も、地域のことで困りごとやわからないことがあっても自治会長とは距離があり、直接尋ねに行くのは難しい。自身の地域にまちコがいるのか分からないが、班や組レベルで頼りになる人がいるとありがたいと思う。
- ・小さなことは、班・組など小さな単位で解決していける形が望ましい。
- ・自治会の様々な活動の担い手として、福祉事業所等も念頭に入れるとよい。移動がなく地域にあり続けるし、就労継続支援 B 型事業所等は、施設外作業として、アパートの清掃などに関わることもできる。

部会での意見【全体】

- ・愛知教育大学主催の地域連携フォーラムにて、中高生からいろいろな意見が出され、情報を発信するにはどうしたらいいか等、とてもよく考えていた。また、市民公園づくり会議では、障がいのある子や中学生たちが積極的に発言していた。若い世代、10代が会議やボランティアに参加することは大切であり、学生時代に地域活動やまちづくりに関わることで、将来地元で活動する上でのつながりづくりにもなる。中学生も事業に巻き込むとよい。
- ・各自治会に、改めて「つなぎの学び舎」の受講を呼びかけることもよいが、受講のハードルを低くするために、講座の回数等をコンパクトにして、OJT(現場に就いて学ぶ)の要素を組み合わせる形もよいかもしれない。

令和7年度 かりや夢ファンド補助金活用事業の実施状況について

資料2-1

まちづくり活動支援事業補助金の実施状況について

(単位:円)

No.	事業名	団体名	事業費	補助申請額	R7年度支払(予定)額 (下線は精算完了)	備考
1	子ども食堂にお祭りを届けよう	スマイルリンク	400,000	200,000	<u>200,000</u>	
2	赤十字ハートフェスティバルⅢ ～たいせつな未来のために～	刈谷市赤十字奉仕団	720,000	200,000	<u>200,000</u>	
3	漫画家【沖田×華】さん/トークショー『やらかしたっていいじゃん!!』	刈谷発達仲間会	191,000	50,000	<u>50,000</u>	当該年度交付
4	マグノリア室内管弦楽団 特別演奏会 「Meet the Composer Vol.2」ドヴォルザークの青春	Officeアイリスの華	356,000	50,000	<u>50,000</u>	当該年度交付
5	俳優松原実智子さんの朗読を聞く会 VOL.2	サブロー・ガルテン	100,000	50,000	50,000	当該年度交付 3月事業完了
6	Co-nec-to みんなで育つ! 子どもと大人をつなぐ刈谷コミュニティプロジェクト	ヒラソラ	150,000	50,000	8,000	当該年度交付 3月事業完了

まちづくりびと支援事業補助金の実施状況について

(単位:円)

No.	研修等名	申請者	申請日	補助申請額	交付決定額	支払額
1	防災士研修講座	個人	令和7年4月1日	10,000	10,000	10,000
2	2025年度 防災人材育成研修 防災・減災カレッジ	個人	令和7年5月14日	10,000	10,000	10,000
3	語り・手遊び・絵本 こがようこさんの世界	個人	令和7年10月1日	10,000	10,000	10,000

令和7年度かりや夢ファンド補助金公開審査会 審査結果
まちづくり活動支援事業補助金（申請額20万円以下）

資料2-2

No.	団体名	事業名	回数	事業目的	事業概要	事業費(円)	補助申請額(円)	得点	補助採択額(円)	採択結果
1	特定非営利活動法人ふらっとほーむ	お仕事見学、体験プロジェクト	1	不登校、引きこもりの当事者、家族は「ちゃんと会社で働けること」を自立の目標としがちであるが、社会経験の少ない当事者にとって働くことのハードルは高いため、顔の見える関係性を作り、みんなで街を盛り上げている東栄町の皆さんの柔軟な働き方、生活に触れることで、こうあるべき、という考え方を転換し自分らしい働き方、生き方を発見していくきっかけとする。	7月末～8月上旬（変更可能性有）に、刈谷市内法人活動拠点各所や東栄町各種事業所にて開催。対象者は、ふらっとほーむ・LITALICOワークス刈谷の利用者及びその家族と、お仕事見学や体験に興味のある一般市民。内容は、4日間のお仕事体験とお仕事見学会1日。事前に参加するにあたり、個別の目標、問題意識の確認をする。お仕事体験では、東栄町の宿泊施設で4日間暮らしながら、東栄町の事業所で職場体験を予定。日常生活の支援や事業所との連携、就労アセスメント等のコーディネートを、「言の葉工房」白井氏に依頼。お仕事見学では、東栄町の事業所各所の見学、ミニ体験（作物の収穫や選別など）を予定。終了後は、当初の目的の達成の様子を振り返る。体験参加者は就労アセスメントを受け、今後の就職に向けての材料とする。	152,000	101,000	19.85	101,000	採択
2	刈谷発達仲間会	大人の発達障がい者支援 落語家【柳家花緑】師匠の講演落語会	2	発達障がいは治療で改善は見られても完治は難しい病気で、人間関係の困難さや“こだわり”の強さが特徴の症状や、読み書きや計算の学習が困難な症状もある。「障がいへの理解を深める」をテーマに個性差を受け入れ、一緒になって考え、誰もが生き易く住み易いと感じる町づくりにつなげ、『一人で抱え込まずに本音で話し合える場所』をつくりたい。	令和8年9月27日(日)午後2時～4時に、刈谷市産業振興センター・あいおいホール(700席)にて開催する。障がいの特性の影響で困ったり辛さを感じている人・子の障がいに悩み、子の成人後の対応に心配を抱く人・障がい者を理解し、一緒に暮らせる町づくりを目指す市民を対象に、40歳を過ぎてから発達障がいの診断を受けた花緑師匠による、幼児期からの辛さや悩みを抱えながらも社会で活躍する有様を語る講演落語を通し、質疑応答を交えながら、『笑いを誘い、参加者の皆さんへ勇気を与え、心の悩みをスッキリ』させる。前回はPR開始が遅れたので、早めのPRを心掛ける。また、チケット販売方法も電子方式のみを改め、ご年配の方のアドバイスを参考に、窓口取扱を併用する事で改善を図る。	667,500	200,000	19.29	200,000	採択
3	刈谷防災ボランティア	防災福祉フェア～地域の防災力を高めるために～	1	体験型防災イベントを開催し、市民への防災・減災・備災の啓発啓蒙を通して、地域住民の防災意識を高めることに寄与する。また、体験ブースの実施内容は手順書にまとめ、知識・スキルの継承・後継者の育成につなげる。	令和8年11月21日(土)に、刈谷市総合文化センターにおいて、一般市民を対象に防災イベントを開催する。内容は、防災講演会(例:南海トラフ巨大地震への備え、講師:名古屋大学名誉教授福和伸夫氏等)を基軸に、体験ブースを多数設置し、参加体験型のイベントとする。具体的には、家具の固定、ガラス飛散防止、災害時トイレ、非常持出品、備蓄、身近なものを使った防災対策、応急手当、ロープワーク、搬送訓練、感染防止対策、非常食、炊飯袋、防災ゲーム、ボランティア活動写真展示など、同様のイベントから一歩踏み込んだアクティビティを盛り込む。	308,200	200,000	19.93	200,000	採択
4	富士見町自主防災会	みんなで描こう！つながる防災・ひろがる地域力～防災倉庫を地域をつなぐシンボルへ～	1	公園の防災倉庫を住民から募集したデザインでペイントし、親しみやすいシンボルとすることで、日常的に目に留まりやすくなるとともに、防災フェスティバルなどの啓発活動の象徴としても活用し、地域住民が防災力や地域力の大切さに意識を向けることをねらう。さらに、防災倉庫を中心に世代間交流を促進し、住民同士のつながりを育むことで、災害時に助け合える関係性を築き、安心して暮らせる地域コミュニティの醸成を目的とする。	五軒屋公園に設置された防災倉庫を地域住民から募集したデザインでペイントする。5月総会での内容承認後、6月に関係者との調整、7月に回覧板にて元刈谷地区住民からデザインを募集する。防災倉庫全体は大人が、複数の小さなスペースは子どもが担当することで、世代を超えた協働を促進し、特に子育て世代が気軽に防災に関われるよう工夫する。デザイン採用後、9～12月に見積りから施工・完成までを専門業者と進めていく。防災倉庫は、単なる防災機材の収納施設ではなく、地域のシンボルとするため、色彩豊かで親しみやすく、景観と調和したデザインを採用する。また、地域住民の目に継続的に留まり、防災に関する会話や学びの入口となるよう、子どもが担当する小さなスペースのデザインは定期的に変更し(3年程度でデザイン再募集→再ペイントを繰り返す)、地域と防災をつなぎとめるシンボルとして育てていく。さらに、防災倉庫を中心に、毎年開催している防災フェスティバルを3月に実施する。地域住民によるデザインの紹介や、防災倉庫内部の探検会、親子で楽しめる防災ゲームなどを通じて交流と学びの場を広げる。	301,000	200,000	19.88	200,000	採択
5	重原 歴史を学ぶ会	重原歴史本を通して地元愛を育む	1	重原地区も自治会活動が衰退傾向にある。移住して来られた方も多いため、今後を考えると特に子ども達に地元重原を知ってもらい、好きになってもらい、地元の活動に積極的になって欲しい。自治会活動が活発になると地区内のコミュニケーションもよくなり、大災害時の防災力向上にも繋がる。	重原地区に関わる歴史本を作成、発行する。内容は小学生低学年向けから専門的な物を含む。500冊作成し、300冊は一冊1000円で販売、150冊程は様々な所へ寄贈する予定。完成後は本を活用して重原地区の小学生を対象に読み聞かせをしたり、一般の人向けに読んだうえでの質問会や意見交換会を開催する。また重原の名所巡りのウォークラリーも計画している。会場は、重原市民館。周知の仕方は、回覧板、広報版、重原ホームページ、子ども会の協力を考えている。	550,000	200,000	18.81	200,000	採択

NPO法人設立支援事業補助金

令和7年度は申請なし

令和 7 年度かりや夢ファンド補助金 寄附実績

市民活動支援基金実績

(単位:円)

年度		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度(予定)					
収入	トヨタグループ各社	80,000	80,000	80,000	80,000					
	その他企業	0	0	0	0					
	市民等	212,715	221,487	217,029	200,000					
	ふるさと納税	2,580,000	1,693,000	369,000	400,000					
	小計(a)	2,872,715	1,994,487	666,029	680,000					
	市マッチングギフト(b)	2,872,715	1,994,487	666,029	680,000					
	運用収入額(c)	24,155	105,629	255,944	163,000					
	まちづくり活動支援事業補助金返還金			41,000						
	合計(a)+(b)+(c)	5,769,585	4,094,603	③ 1,629,002	1,523,000					
	内容		件数	交付額	件数	交付額	件数	交付額	件数	交付額(予定)
支出	夢 ファン ド	まちづくり活動支援事業補助金	5	825,000	9	555,000	6	600,000	12	900,000
	NPO法人設立支援事業補助金	1	100,000	1	50,000	0	0	0	0	
	まちづくりびと支援事業補助金	3	28,500	7	62,300	3	30,000	10	100,000	
	笑顔あふれる地域づくり補助金 ※ 2			16	1,889,000	23	11,500,000	23	3,450,000	
	合計	9	953,500	33	2,556,300	32	④ 12,130,000	45	4,450,000	
各年度末の基金額		17,922,922	② 19,461,225	① 8,960,227						

①年度末の基金額

= ②前年度末の基金額 + ③当該年度収入の合計 - ④当該年度支出の合計

※ 1 令和 7 年度の交付額は令和 8 年 2 月末時点の状況であり、3 月に開催予定の複数の事業完了後に確定するため、予定額である。

※ 2 笑顔あふれる地域づくり補助金

住民の顔の見える関係づくり又は活力ある地域づくりに取り組む自治会等に対して交付する補助金。「かりや夢ファンド補助金」と同じく、「市民活動支援基金」を財源としており、基金全体の支出を示すため本資料に掲載。

【参考】

令和 6 年度：補助率 2 分の 1、上限額：1 団体あたり 1 5 万円

令和 7 年度（7 5 周年記念事業）：補助率 1 0 分の 1 0

上限額：1 団体あたり 5 0 万円

令和 8 年度：補助率 2 分の 1、上限額：1 団体あたり 1 5 万円

令和 7 年度 市民協働事業の進捗状況について

	事業名	概要	実施内容
1	共存・協働の まちづくり講座 (学習編)	共存・協働のまちづくりを進めていくため、市民と行政が協働を進めていく上での考え方と、行政の対応の仕方について学ぶ。	令和 7 年 8 月 4 日 (月) 開催 <ul style="list-style-type: none"> ・受講者数：入庁 3 年目の職員等 33 人 ・大野裕史氏に、「協働するとはなにか」について市職員の立場や役割を鑑みながら講義をしていただいた後、まちコより共存・協働の事例について紹介、市職員より「共存・協働心得帳」について説明した。 ・地域づくりコーディネートゲームを使用し、限られた資源や条件を使って、どのように目的に対して物事をコーディネートしていくかを考えるグループワークをした。
2	かりや衣浦 つながるねット	刈谷市、知立市、高浜市、東浦町間の市民活動情報サイトで、イベントや団体に関する情報の閲覧、参加者やボランティアの募集・申込等ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・令和 7 年 10 月 19 日 (日) に、刈谷市総合文化センターで開催される「福祉健康フェスティバル」にて、つながるねット PR ブースを出展した。ブースでは、つながるねット接続体験、PR 動画上映、缶バッジ製作体験等を実施した。 ・令和 8 年 2 月 5 日 (木) に、刈谷市民ボランティア活動センターにて、つながるねット団体交流会を開催した。定住自立圏 3 市 1 町の市民活動団体を招き、「楽しく活動するために工夫していること」をテーマに話し合った。
3	わがまちの つむぎ場	市民活動団体、企業、市民等が出会い、つながる場であるボランティア活動見本市を開催する。	令和 7 年 12 月 7 日 (日) 開催 <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア団体や企業 28 団体がブースを設け活動を紹介した。各団体が積極的に交流を行い、情報交換が行われたことで、さらなる市民活動活性化のきっかけとなった。 ・センター入口前のロビーにて、団体の作品展示を実施した。 ・市民協働課及びまちコくらぶも出展し、事業等の PR を行った。

4	共存・協働のまちづくり講座 (実践編)	様々な主体と協力・連携したまちづくりを進めていくため、市民と行政が協働を進めていく上での考え方、行政の対応の仕方について学ぶ。	令和8年1月30日(金)開催 <ul style="list-style-type: none"> ・受講者数：令和6、7年度に係長になった市職員等 25人 ・稲葉久之氏に、「協働するとはなにか」「共存・協働のまちづくりにおける市民との向き合い方」について講義をしていただいた。 ・担当する事業において、パートナーとの協働をどのように行えるか等を考えてもらうグループワークを実施した。
5	わがまちのしゃべり場	市民同士の対話を通して、地域や活動における課題を参加者自らが気づき、自らが解決するためのきっかけを提供する。	令和8年2月14日(土)開催 <ul style="list-style-type: none"> ・参加者：20人 ・今年度は、スポーツ、お祭り、子育て等の分野で、まちのなかで頑張っているゲスト5名を招き、それぞれ取り組んでいることの共有と、参加者同士で自由に語り合う場を提供した。
6	協働のまつり場	市の施策に関して、市民・地域団体・市民活動団体等と行政が意見交換する。	令和8年2月3日(火)開催 <ul style="list-style-type: none"> ・がん検診について、関係団体等(刈谷市スポーツ推進委員協議会、刈谷地域ねこの会、ちょこっとささえあいセンター、まちづくりコーディネーター)と行政の関係各課(健康推進課、生涯学習課、スポーツ課)で意見交換会を行った。 ・「どんな人に、どう伝えたら、がん検診を受けるだろうか？」について2グループで話し合い、がん検診の対象者(特に40～50代)に受診を促す効果的なアプローチのヒントを得たり新たな発見に繋がったりすることができた。

来年度のスケジュールについて

開催日程	開催内容
第1回夢ファンド部会 6月19日（金） 14時～16時	（1）かりや夢ファンド補助金に関する検討 （2）かりや夢ファンド補助金書類審査
第1回まちづくりん部会 8月20日（木） 14時～15時30分	地域活動の現場で、共存・協働のまちづくりを進めるための方策について検討
第1回推進委員会 10月14日（水） 14時～15時30分	（1）第1回まちづくりん部会の協議報告 （2）第1回夢ファンド部会の協議報告 （3）市民協働事業進捗報告
第2回夢ファンド部会 11月19日（木） 14時～16時	かりや夢ファンド補助金書類審査
第2回まちづくりん部会 令和9年1月21日（木） 10時～11時30分	地域活動の現場で、共存・協働のまちづくりを進めるための方策について検討
第3回夢ファンド部会 【公開審査会】 令和9年1月23日（土）	かりや夢ファンド補助金公開審査
第2回推進委員会 （令和9年3月中旬）	（1）第2回まちづくりん部会の協議報告 （2）かりや夢ファンド補助金審査結果の報告 （3）市民協働事業実施報告